



平成15年5月号 No.445

# 広報かなぎ

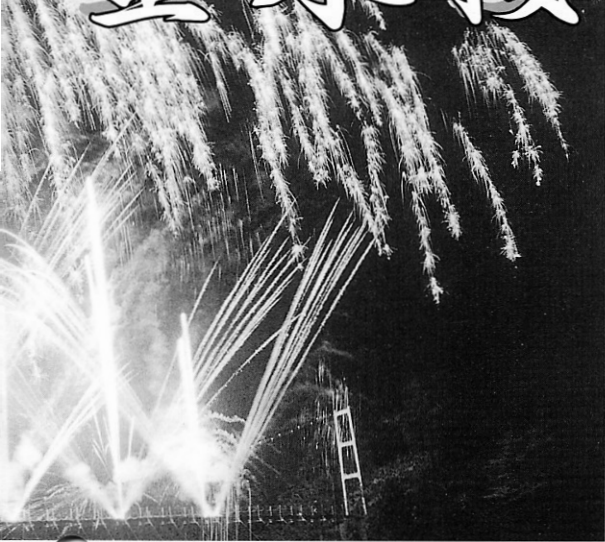


## 桜の木の下から出発!

4月29日、芦野公園こどもランドで変り種自転車を楽しむ姉弟。



# 金木桜まつり



期間中に満開・春爛漫

二千二万六千人が来園!

金木桜まつりが四月二十七日から五月五日までの九日間、県立菅野公園で開催されました。

今年是天候に恵まれ公園内の桜二千二百本が三十日に満開となり、期間中には昨年を上回る二十一万六千人(昨年十四万人)の花見客が県内外から訪れました。

好天に恵まれた二十七日

の開会式で鳴海町長は「今年には多くの人が予想されます。事故や犯罪のない楽しい祭りになりたい」とあいさつし、来賓によるテープカットで開幕を祝いました。

夕方から風が止んだ二日の花火大会では、夜空に四千発の花火が打ち上げられ、訪れた観客が大きな歓声と拍手を送っていました。

好天が続ぎ葉桜が目立った後半の連休には、湖上ステージでの歌謡ショーやカラオケ大会に大勢の人が集まりイベントを盛り上げ、公園内ではいくつもの酒宴の輪が広がりまつりを満喫していました。

## 桜まつり協賛 スポーツ上位入賞者



◆第32回西北五地区中学校選抜女子ソフトボール大会  
4月29日 金中ソフトボール場  
★優勝 金木中学校



◆第32回防犯少年野球大会兼全日本学童野球北郡予選  
4月29日 運動公園野球場他  
★優勝 金木小学校  
◆第7回中学校野球大会兼第19回全日本少年野球大会北郡予選  
5月3日 運動公園野球場  
★優勝 金木中学校



◆第29回西北五中学校選抜卓球大会  
4月29日 農業者トレーニングセンター  
★男子団体第3位 金木中学校



# 2003 県立芦野公園



テープカットで桜まつり開幕



花見客でにぎわう園内



酒宴の和



## 湖上ステージでのイベント



第10回県下登山はやし金木大会

登山はやし



県立芦野公園

レクダンス



歌謡ショー



白川 昭彦  
松山 幸治  
カラオケ



### ◆第26回芦野陸上競技選手権大会

5月4日 金中陸上競技場

★小学男子1500m第3位

今 涼二 (喜良市小)

★小学5女100m第1位

古川亜沙美 (喜良市小)

★小学男100m第2位

今 優輔 (喜良市小)

★小学男100m第3位

長内 大生 (喜良市小)

★中学女4×100第2位

金木南中学校

★中学男走高跳第3位

大佐賀 翼 (金木中)

★中学男走幅跳第3位

野宮 龍樹 (金木中)



### ◆平成15年度県下銃剣道大会 5月5日 招魂堂前

★一般の部第3位 三上 雅秀 ★一般の部(短剣道)優勝 三上 雅秀



### ◆第23回西北五小中学校相撲大会

4月29日 町営相撲場

★小学校団体第3位 金木小学校

★個人小学5年の部第2位

白川 康靖 (金木小)

★中学校団体第1位 金木中学校

★個人中学1年の部第2位

野上 怜 (金木中)

★個人中学2年の部第2位

津島 祐希 (金木中)

# — 太宰治記念館『斜陽館』

## — 入館者50万人突破 —



館を訪れました。驚いています」と話していました。この後、木下教育長の案内で館内を見学しました。

1998年4月17日に太宰治記念館としてオープンした「斜陽館」の入館者が4月29日、50万人を突破し館内で記念セレモニーが行われました。

記念すべき50万人目の入館者となったのは、新潟県小千谷市で和菓子店を営んでいる池ハツイさん。友人4人で県内桜名所を巡るツアーで斜陽館を訪れ記念入館者となりました。

鳴海町長から斜陽館の写真パネルと花束を贈られた池さんは「夢のようです。桜を見に来た記念にと斜陽

### 第十五回 津軽三味線

# 全日本金木大会

第十五回津軽三味線全日本金木大会が五月四・五日、中央公民館で開催されました。

開催日を一日延長して行われた今大会には、カザフ自治州出身のアイティ・ムラティさんら全国各地から個人五部門百四十九人、団体三部門十三組百九人が参加。各部門ごとに別れて日ごとの練習の成果を競い合いました。

大会には二日間のべ約千八百人の観客が訪れ、大ホール全体に響きわたる津軽三味線の力強くかつ繊細な演奏と息の合った合奏に拍手と声援を送っていました。

審査について大條和雄審査委員長が「教育と娯楽を基点に審査しました」と述べ、この結果、個人一般の部A級から選ばれる最高位の仁太坊賞は、岩手県滝沢村の黒澤博幸さんが昨年に続き輝きました。



仁太坊賞を受賞した黒澤博幸さんは「師匠と生徒さんたちに心からお礼を言いたい。これを励みにがんばります」と話していました。



弘前市の津軽三味線まんじ会の皆さん



四日の大会終了後に行われた恒例のセレモニー「津軽三味線史跡巡り」には大会出場者ら八十八人が参加。

参加者は仁太坊が編み出した津軽三味線がどのようなところで弾かれ、肉付けされたかを知るために、川倉賽の河原、嘉瀬観音、神原の仁太坊の碑を訪れ参拝し献花しました。



盲導犬アイアンと出番を待つ  
広島県の小畑正弘さん



出場最年少4才の静岡県  
土屋亜実ちゃん





# 平成15年度 定期連合観閲式



## 消防功労者58名・2団体を表彰



五月三日、金木タウンセンター駐車場で金木北部消防団連絡協議会（会長 榎引幸雄）主催による定期連合観閲式が、金木町、中里町、市浦村、小泊村の各消防団員七百三十六人が参加して行われました。

式典では、はじめに殉職消防職員、団員に対して参列者一同が黙祷をささげ、つづいて各分団の姿勢服装と機械器具の点検及び放水演習、嘉瀬婦人消防協力隊による消火訓練が披露されました。

この後、各分団員全員による分列行進が行われ、来賓や家族から大きな拍手が送られていました。

この観閲式で行われた各表彰の受賞者は次のとおり。  
（金木町分）

### ◆消防庁長官表彰

▽永年勤続功労章  
副分団長 山口 善三



### ◆青森県知事表彰

▽永年勤続功労章  
分団長 泉谷 雅彦  
副分団長 三海 耕藏  
副分団長 白川 耕藏  
副分団長 松川 兼良  
班長 桜庭 昭夫

### ◆日本消防協会会長表彰

▽功績章  
副団長 中村 健男

▽精績章  
副団長 成田 勉

▽勤続章  
分団長 加藤 勇  
副分団長 葛西 博美

### ◆青森県消防協会会長表彰

▽優良消防分団  
金木町消防団第3分団

### ▽優良消防分団（現場功労） 金木町消防団第2分団

#### ▽功労章

分団長 加藤 勇  
副分団長 葛西 博美

#### ▽現場功労章

部 長 米谷 廣明

#### ▽二十五年勤続章

分団長 泉谷 雅彦  
副分団長 三海 耕藏  
副分団長 白川 耕藏  
副分団長 松川 兼良  
班長 桜庭 昭夫

#### ▽二十年勤続章

副分団長 山中 満  
部 長 小山内正一  
部 長 鳴海 公徳  
部 長 工藤 文裕  
班長 桑田 哲明

#### ▽十五年勤続章

部 長 吉田陽一郎  
部 長 新岡 幸浩  
部 長 原田 繁福  
部 長 鳴海 恭治  
部 長 成田 憲昭

#### 班 長

班 長 竹内 義継  
班 長 桑田 直喜  
班 長 外崎 宏治  
班 長 山中 信弘  
班 長 花田 享一

班 長 木立 二夫

### ▽十年勤続章

班 長 今 君弘  
班 長 福山 和人  
班 長 津島 善行  
班 長 竹内 将

班 長 平川 新也

班 長 鳴海 伯

班 長 須崎 睦

班 長 今 清比古

班 長 成田 昌利

班 長 松橋 実

班 長 沢田 孝夫

班 長 原田 繁福

班 長 工藤 誠

班 長 白取 勝美

班 長 桑田 哲明

副分団長 沢田 誠一

副分団長 泉谷 知明

副分団長 成田 昌利

### ◆金木北部消防団 連絡協議会長表彰

団員 中野 俊美  
団員 中谷 敬三  
団員 外崎 哲彦  
団員 斉藤 準

団員 成田 弘繼

団員 大橋 一則

# 3月定例会

3月6日から的一般質問で川口隆、田中昇、中谷秀八、秋元洋子議員が登壇し、金木川の改修、芦野公園でのイベント、低コスト複合経営、バランスシートの作成等について、町長らに質問しました。内容は次のとおりです。

## 川口隆議員

「金木川の柳等の除去状況、新金木川工事の見直しと対応雨量を聞きたい。」「過去三カ年の農産物の売上が知りたい。農産物の加工と特産物づくりへの対応はどうなっているのか。」「観光客の人数と、これに伴う売上はどうなっているのか。宿泊施設の考えを知りたい。」  
「交付税減額に伴う不況対策の考えを聞きたい。」

## 鳴海町長

「金木川の柳等の除去については、関係各位の陳情により川端地区を中心に柳と土砂の除去を行い低いところに土嚢を積んで対処した。金木川鉄道橋の緊急対策事業の要望活動を実施したところ採択されれば遅くとも平成十七年までにショートカット部分が完成しますが国の予算、特に河川関係が厳しいということから政治力の結集を図りながら陳情を行ってほしい。」「農業問題については少し

でも補助対象になる事業をすすめて農業所得向上に努めたい。」「宿泊施設について駅前の方で商店街を利用した民宿をやってみたいという声があり、今後話が決まり次第相談したい。」「不況対策として信用保証協会へ約二千万円の貸し出しと五十万円の出損金を出し開業小口資金特別保証制度と中小企業近代化資金特別保証制度を設け町内に住む中小企業の融資にあたるため対象外となる人が結構あり円満に見受けられること、近年県内で行われているプレミアム付地域商品券の発行を念頭に入れ少しでも町の不況対策に取り組んでいきたい。」

## 建設課長

「新金木川全体計画は平成二十四年で終了となっているが国の公共事業等の見直しが行われていることから今後も要望活動が必要となる。対応雨量は、旧十川合流地点までの全体計画二千六百六十トンが完成した場合、百六十五ミリとなっている。」

## 農林課長

「農産物の売上について、大豆が不順天候の影響で収量が減少し十三年産の半分が残り十四年産は売れていない。小麦については変わりがない。野菜も不順天候の影響で売上高が下がっている。花卉については全体に伸びている状況にある。今後の対応として、一、二次加工及び地域環境に配慮した農産物の生産を進め、周年出荷を目的とした冬の農業へのパイプハウスを助成していきたい。加工については中山間活性化事業で転作物物のソバ、漬物、味噌などの加工の勉強をしております、今後も関

係機関の協力を得ながらやっていきたい。特産物開発参加者を募集したところ六戸の農家及び団体がやりたいという事から新フロンティア21農業農村活性化推進事業を活用して開発を進めていきたい。」

## 企画観光課長

「町への観光客は、津軽三味線会館で十二年度三万四千七百二十五人、十三年度五万三千八百六十七人、十五年三月二日現在で五万九千七百七人となっており、斜陽館については十年度十萬四千四百七十五人、十一年度八萬八千四百四十六人、十二年度八萬八千三百三十九人、十三年度十萬八千八百三十五人、十五年二月末現在十萬七千三百三十二人となっている。観光物産館の売上は、十一年度七千九百十萬円、十二年度約一億三千万円、十三年度一億五千五百萬円、十五年二月末現在八千三百四十萬円ですが決算が五月から六月ということ、昨年並みと推理される。プレミアム商品券は近隣では板柳町、中里町、今年から小泊村で行われ、一萬円分の商品券を買った方に千円を上乗せして一萬一千円分の商品券を手渡すもので商工会が窓口となり、賛同が得られれば十五年度内に行う予定で商工会へ打診してみたい。」

## 田中昇議員

「芦野公園での一年間を通したイベントなど活用方法の考えを聞きたい。」「駅舎周辺整備をどのように行うか聞きたい。街路灯新設予定だが木や花の植栽についての聞きたい。」「ホテル建設はその後のように進められているのか。」  
「農家や地元の人たちが直接販売できる施設があればいいと思うが考えを聞きたい。」「特産物開発がどのように進められているのか聞き

たい。」「金木高校の進学について、一クラスでも多くし地元進学を増やしてもらおう考えはないのか。」

## 鳴海町長

「芦野公園の四季を通したイベントの開催と町全体のイベントの見直しについて、関係者を集め懇談会を設けて検討する。」「駅の建てかえは検討委員会で徐々に進んでおり、金木でなければならぬものを飾ってきれいな町の観光に相応しい対応をしていきたい。建てかえ後の周辺整備を合併に関する新町建設計画の中の一環に入りたいという構想をもっている。」  
「ホテル建設は経済状況と厳しい財政から今まで断念した経緯であるが、補助事業の宿泊施設があるという点、狭い点もあるが物産館前にあつたらと思っている。」

## 企画観光課長

「物産館北側の軒下において農林課関係で農産物直売を無料で行っており、それ以外の計画は白紙状態であるが町長の指示を仰ぎながら計画してみたい。」

## 農林課長

「特産物について、十三年度から特産物の開発をテーマに農協、商工会、普及センター、町、各農家、農協と商工会から推薦された関係者十数名で協議会を設立し検討してきた。ヨシモチなどやりたいたと約七名の方が希望しており、十五年度事業で商品化に向けた試食や販売テストを進めていきたい。」

## 木下教育長

「金木高校のクラス増について

校長と話したところ、県では六十四の学級を減にすることから学級増は非常に難しい状況だということでしたが、地元からいるんな点において多く入学させてもらわなければ困りますということをお願いしたい。」

## 中谷秀八議員

「農業開放の窮地を乗り越えるために低コスト複合経営の大型モデル団地を計画する考えはないか。」「転作補助金制度廃止による収益に結びつける生産経営体制の対策を聞きたい。」「畑作物について病害虫を嫌う農作物同士が隣り合わせ被害を受けている状況と対応、対策について知りたい。」「下水道整備推進のために公共農集排に合併処理浄化槽も合わせて整備する考えはないのか。」「林下から藤枝間道路と向道から賽の河原間道路は道幅が狭く交通量が多いことから拡張整備する考えはないか。」  
「保育所の統合について町の考えと、統合した場合職員にゆとりが出る事から特別保育事業を導入する考えはないか。」「学校完全五日制が始まり今までの方針を変えざるを得なかった点と、五日制の趣旨に沿った企画と対応について知りたい。」

## 鳴海町長

「米価の低迷等から生産コストの低減が不可欠ことから、低コスト複合経営大型モデル団地計画を実践するために用地集積や共同化について転作組合あるいは農協等の協力得て転作組合あるいは農協等の協力得て転作組合と協議の上ぜひ実現に向けて取り組んでいきたい。」「転作の安定経営のために転作物の有機栽培や加工を通して付加価値を付け少しでも高い値段を得るために、農協並びに普及センターと連絡をしながら少しでも